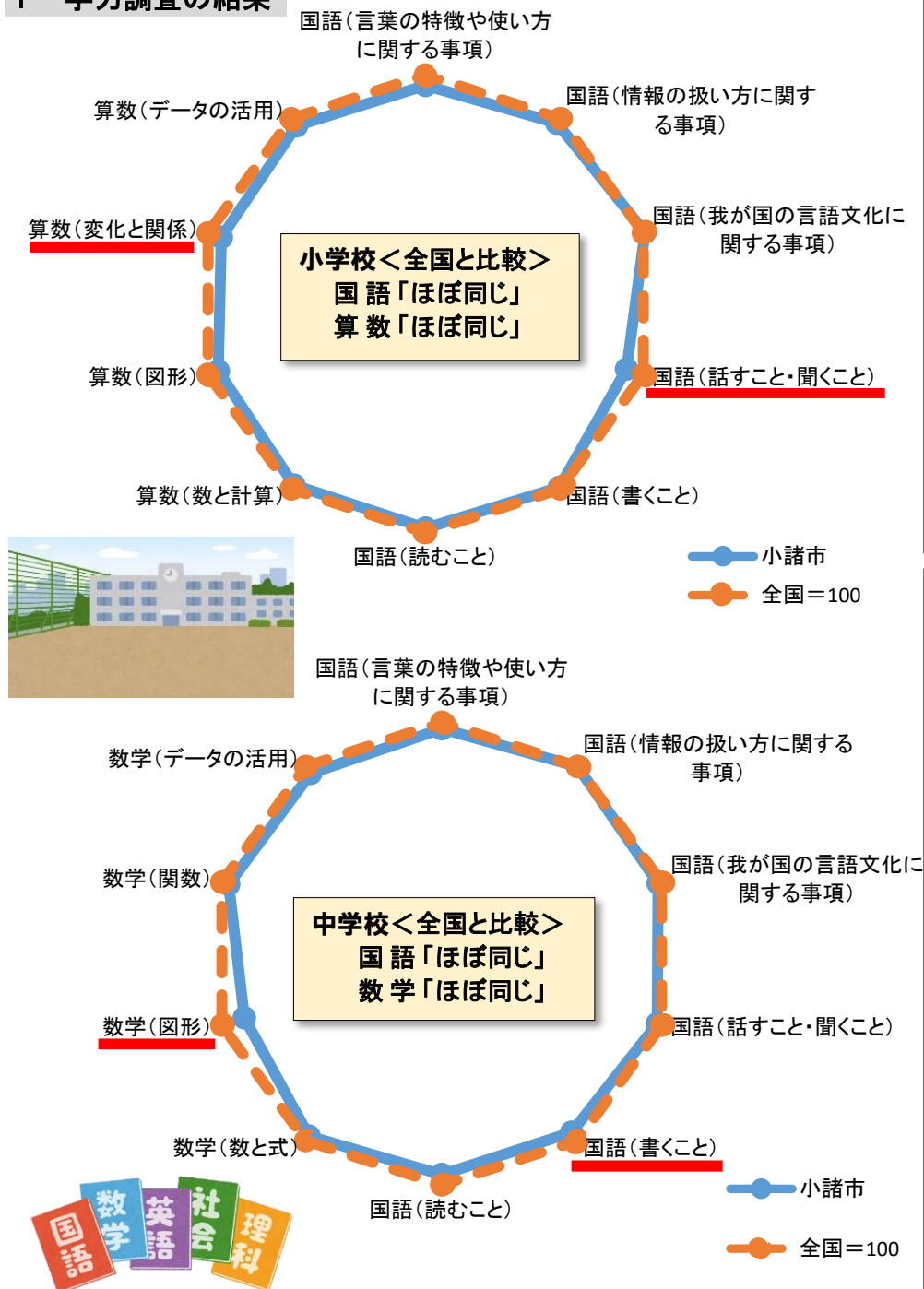


令和 6 年 4 月 18 日、全国学力・学習状況調査が行われました。この調査は、小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象とし、今年度は「国語」、「算数・数学」の 2 教科が実施されました。小諸市内の小・中学校の調査結果は、学習指導要領内容項目の平均正答率を全国（100）として比べると、以下のグラフのような結果となりました。出題の趣旨からみた、おもな成果（◎）と課題（△）も示しました。

1 学力調査の結果



国語（小）

◎「我が国の言語文化に関する事項」⇒日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。

△「話すこと・聞くこと」⇒目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

算数（小）

◎「数と計算」⇒問題場面の数量の関係を捉え、加法と減法との相互関係について理解すること。

△「変化と関係」⇒速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること。

国語（中）

◎「情報の扱い方に関する事項」⇒原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。

△「書くこと」⇒物語を創作する場面において、表現の効果を考え、描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

数学（中）

◎「数と式」⇒文字を用いた式を具体的な場面で活用すること。

△「図形」⇒三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること。証明の必要性和意味及びその方法について理解すること。三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること。

☆全国と比較すると、小中学校ともに国語及び算数・数学は「ほぼ同じ」という結果になりました。

記述問題において、最後まであきらめずに答えを書こうと努力した児童生徒が増えました。（国語）

☆次頁以降には、右上の各教科に示した課題（△）に関して、子どもたちが苦手としている実際の問題の一部を取り上げてみました。また、「児童生徒質問紙」調査の結果からみえてきた点もまとめました。

2 苦手（課題△）としている問題は・・・

○小諸市の児童生徒が苦手としている実際の問題は、以下のようなものでした。各問題にはどんな力が求められているのか（出題の趣旨、問題の概要等）、また市内児童生徒の多かった誤答の傾向も付しました。

国語（小）

⑧ 本に興味をもってもらえるようになるのはいいですね。ぜひやってみます。

⑨ 次に、私たちの学校の給食についてしょうかいしたいのですが、いいですか。

⑩ お願いします。

⑪ アイデア給食というものがあります。年2回、自分たちが考えたこんだてが登場します。海に近くて、魚がたくさんとれるので、魚料理などを考えます。みんなでアイデアを出し合ったこんだてが登場するので、アイデア給食と呼んでいます。

⑫ みんなで考えたこんだてが出るなんてうらやましいです。私の学校は、ランチルームがあり、全校のみんなで給食を食べます。

⑬ みんなで食べられるなんて、楽しそうですね。

⑭ はい。給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いということですが、他にも、海に近い学校ならではの取り組みはありますか。

⑮ えっと…（【和田さんのメモ】を見返す）、二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜の清掃活動です。

⑯ 二つもあるんですね。ぜひ、一つ一つ詳しく教えてください。

～（交流が続く）～

深緑小学校 村木さん 海風小学校 和田さん

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願いします。

③ メールありがとうございます。図書委員のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

【オンライン交流の様子の一部】

【和田さんのメモ】

村木さんが知りたいこと	自分が伝えたいこと
- 図書委員会の取り組み ○読書イベント ・月に1回 ・クイズなど	○アイデア給食 ・年に2回 ・自分たちが考えたこんだて
これは伝えたい	- 地いきならではの取り組み ○総合的な学習の時間 ・海の生き物の調査 ○すなはまの清そう活動 ・学期に1回
質問されたら答える	○音楽クラブの演奏会 ・たん当の楽器は水さん ・地いきの行事に参加
用意するもの	
・クイズが書かれたカード	
・海の生き物の写真	

【正答例】

『4』自分の学校の「地いきならではの取り組み」に、関係する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。

【誤答等の傾向】

『3』自分の学校の「地いきならではの取り組み」に、関係する情報を整理していることを捉えることはできているが、複数の情報をまとめて伝えることができていないと考えられる。

三 和田さんは、「オンライン交流の様子の一部」をふり返り、発言⑤のところで、「【和田さんのメモ】」に役立ったことに改めて気づきました。その説明として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に、関係する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。
- 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に、関係する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。
- 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に、関係する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。
- 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に、関係する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

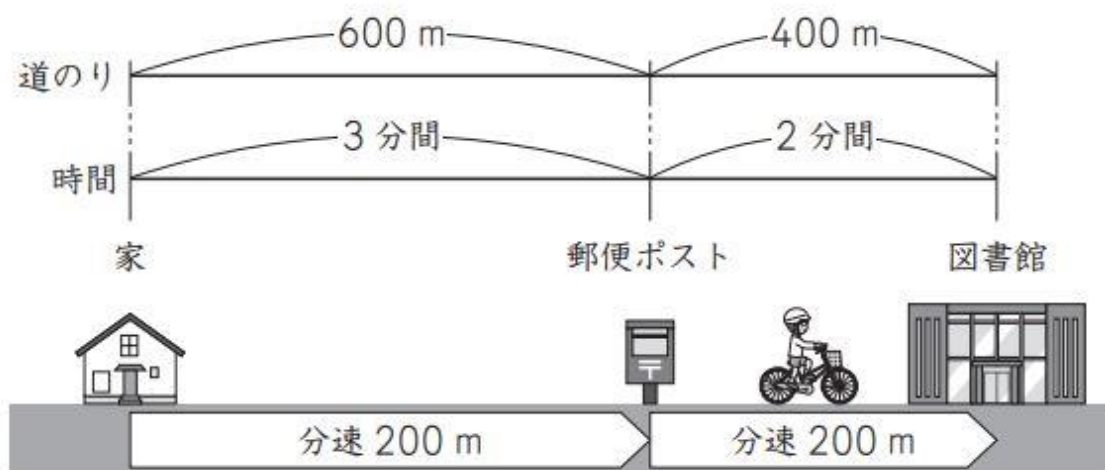
目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題です。

【問題の概要】

この問題では、「海に近い学校ならではの取り組みはありますか。」という村木さんの質問に対し、「【和田さんのメモ】」に、自分の学校の「地いきならではの取り組み」に、関係する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができたことを捉えることが求められます。

算数（小）

- (4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から郵便ポストの前まで、5 分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは 600 m で、3 分間かかり、速さは分速 200 m でした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは 400 m で、2 分間かかり、速さは分速 200 m でした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。

答えを書きましょう。

【正答】 ○「200」

【誤答の傾向】 ×「400」自転車の速さが、家から郵便ポストまで分速 200m、郵便ポストから図書館まで分速 200m であるとき、家から図書館までは分速 400m になると誤って捉えている児童が多い。

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるかどうかをみます。

- ・ 除数が小数である場合の除法の計算をすること。
- ・ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること。
- ・ 道のりが等しいことを基に、時間と速さの関係について考察し、表現すること。
- ・ 速さの意味について理解していること。

【問題の概要】

この問題では、家から図書館までの道のりと時間を読み取り、それらを基にして速さについて正しく理解できているかが求められます。

四 佐藤さんは、【物語の下書き】の□の部分で、【フートの一部】の④の場面の「僕」の心情を伝えて物語を終えようとしています。あなたなら、どのように工夫して書きますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 「あの日から数日が過ぎた。」に続けて、表現を工夫して書きなさい。

イ あなたがアで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。

【物語の下書き】

① あの日も僕は、君の部屋の本棚の隅でじっと待っていた。ほこりだらけになりながら。中学生になつてから、君はオンライン辞書を使うようになった。以前はよく、印を付けたリ、書き込みをしたりしてくれただのに。君との距離は、ずいぶん遠くなつてしまった。

② インターネットだと、複数の辞書にアクセスできるから、タブレット端末だけを持ち運べばよい。単語さえ入力すれば、すぐに知りたいことを教えてくれるし、かさばらないし。君にとっては、とても便利なのだろう。僕なんて、このまま忘れられてしまうのかな。

③ そう考えていたとき、君は僕を手を取った。学校にタブレットを置いてきたのだろうか。久しぶりだったから、僕はびっくりし、君はほこりで大きくしゃみをした。ほこりだらけの僕に顔をしかめたけれど、何度もページを繰っては、いろいろな言葉の意味を調べていた。当然、いつもよりは時間がかかっている。

調べなければならぬ言葉だけでなく、近くにある言葉にも線を引き、意味を確認する君。意味調べが終わっても、君は僕をいつもの場所に戻さなかった。しばらくページを繰り、小学生のときに印を付けた言葉や書き込んだ言葉を読み返していた。君はみちたりた表情をしていた。僕は自分が認められたような気がした。

④ あの日から数日が過ぎた。

【フートの一部】

〈各場面で伝えたい「僕」の心情〉

- ① 出番のない寂しさ。
② 忘れられるかもしれない不安。
③ 久しぶりの出番で感じた喜び。
④ 次の出番への期待。

【正答例】

「ア」窓から差し込む光を浴びながら、今日も僕はいつもの場所で君を待っている。

「イ」窓から差し込む光を浴びながら」のように情景を描写することで、「僕」の期待感が印象的に伝わる。

【誤答の傾向】

「ア」窓から差し込む光を浴びながら、今日も僕はいつもの場所で君を待っている。

「イ」情景を描写した。

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができかどうかをみます。

【問題の概要】

この問題では、「あの日から数日が過ぎた。」に適切に続くように、表現を工夫して物語の最後の場面を書くとともに、工夫した表現が、「僕」の次の出番への期待を伝える上で、どのような効果があるのかを具体的に書くことが求められます。

数学(中)

- 9 線分ABがあります。線分AB上に点Cをとり、AC、CBをそれぞれ1辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとします。

桃子さんは次の図1のように点Cをとり、健太さんは次の図2のように線分ABの midpoint に点Cをとりました。

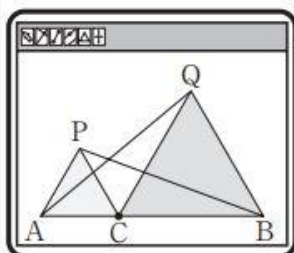


図1

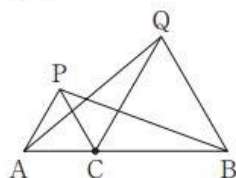
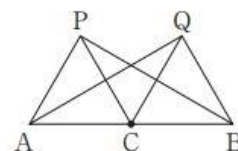


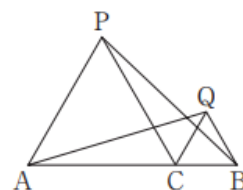
図2



二人は図1と図2を観察し、線分や角についていえることがないか気になりました。そこで、コンピュータを使って点Cを動かしながら調べました。

- (1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Cが線分AB上のどこにあっても、 $AQ = PB$ になると予想しました。

桃子さんの予想した $AQ = PB$ がいつでも成り立つことは、 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ = PB$ になることの証明を完成しなさい。



【正答例】 正三角形の辺はすべて等しいから、 $AC = PC$ ……① $CQ = CB$ ……②

正三角形の1つの内角は 60° より、

$\angle ACQ = 60^\circ + \angle PCQ$ $\angle PCB = 60^\circ + \angle PCQ$

よって、 $\angle ACQ = \angle PCB$ ……③

①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、

$\triangle QAC \equiv \triangle BPC$

【誤答の具体例】

「 $AC = PC$ 」、「 $CQ = CB$ 」、「 $\angle ACQ = \angle PCB$ 」、「 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ 」を記述しているが、成り立たないことや証明していないことを用いたり、誤った根拠を記述したりしている。

× 仮定より、

$AC = PC$ ……① $CQ = CB$ ……② $\angle ACQ = \angle PCB$ ……③

①、②、③より、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

二つの正三角形によってできる図形の性質を考察する場面を取り上げている。具体的には、図1や図2を観察した上で、線分や角について成り立ちそうなことをコンピュータを使って調べ、二つの線分の長さが等しいことを見だし、証明することができるかどうかをみます。

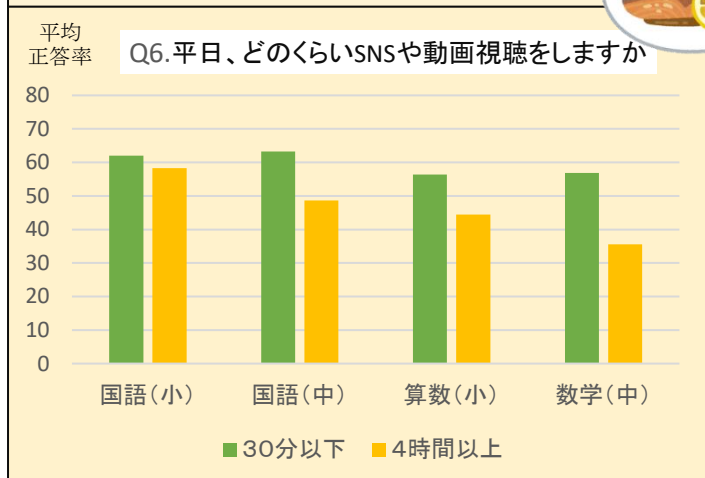
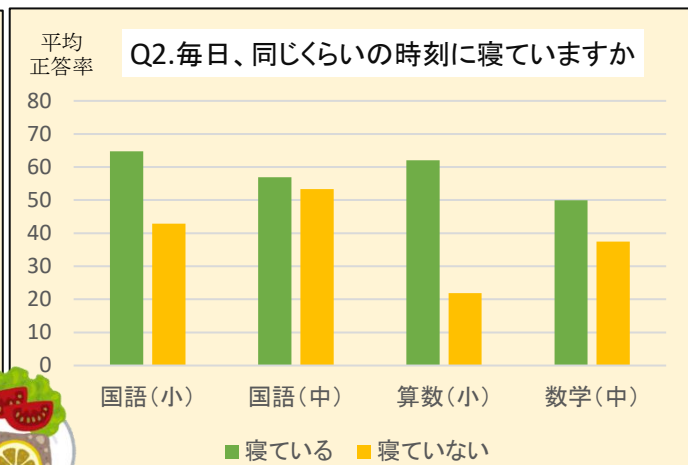
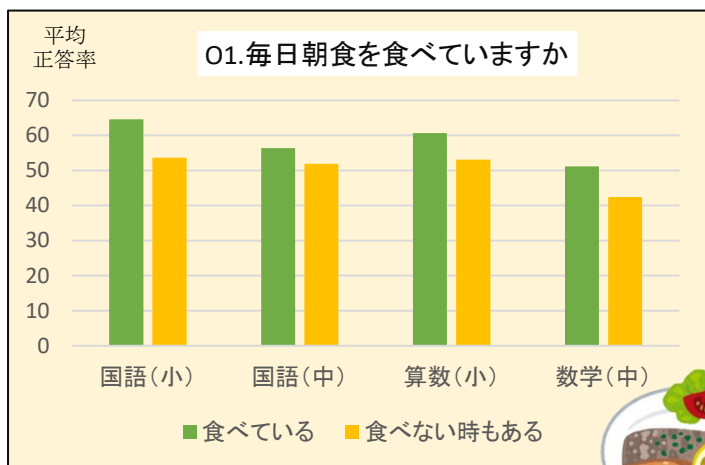
【問題の概要】

この問題では、図形についての考察場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することを求めています。

説明する際には(a) $AC = PC$ 、(b) $CQ = CB$ 、(c) $\angle ACQ = \angle PCB$ 、(d) $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ とそれぞれの根拠を記述する必要があります。

3 正答率からみた生活習慣と学力の関係性は・・・＜「児童生徒質問紙」調査の中から抜粋＞

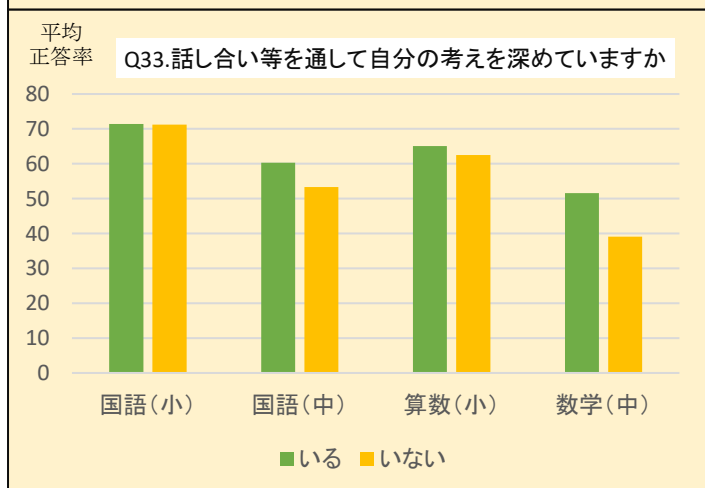
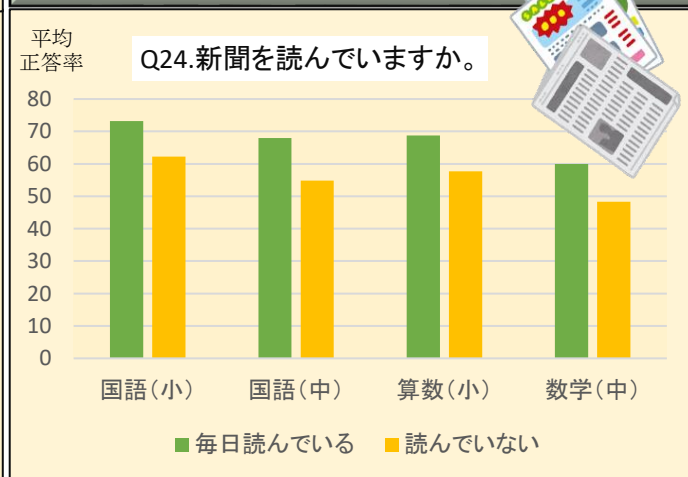
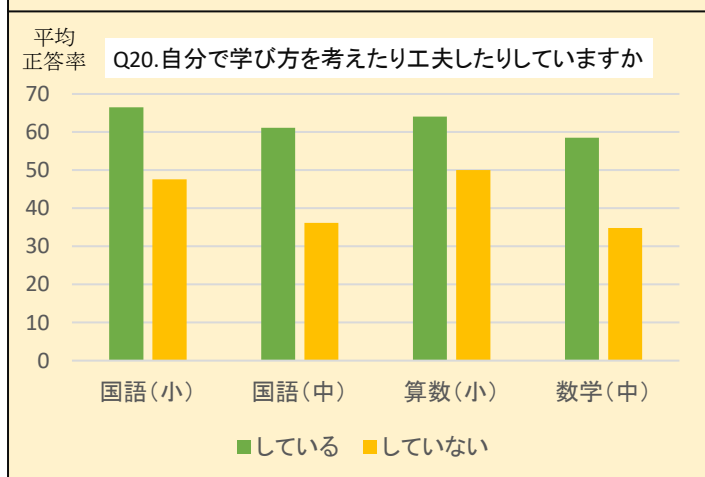
○子どもたちの学力向上には、学校での授業や家庭学習の充実に加え、基本的な生活習慣を身につけることも欠かせません。以下は調査から抜粋した質問に対し、正答率との関係をクロス集計した結果です。



☆Q1. 市内小・中どの教科においても、毎日朝食を食べている子どもほど、正答率が高い傾向にあります。

☆Q2. 毎日、決まった時刻に就寝し、『早寝・早起き・朝ごはん』の規則正しい生活習慣が身についている子どもほど、正答率が高いことが分かります。

☆Q6. 早寝・早起きをするには、帰宅後の時間の使い方も大切です。SNSや動画視聴などについては、家庭での約束事を守りながら、様々なメディアと上手に付き合っていく必要があります。

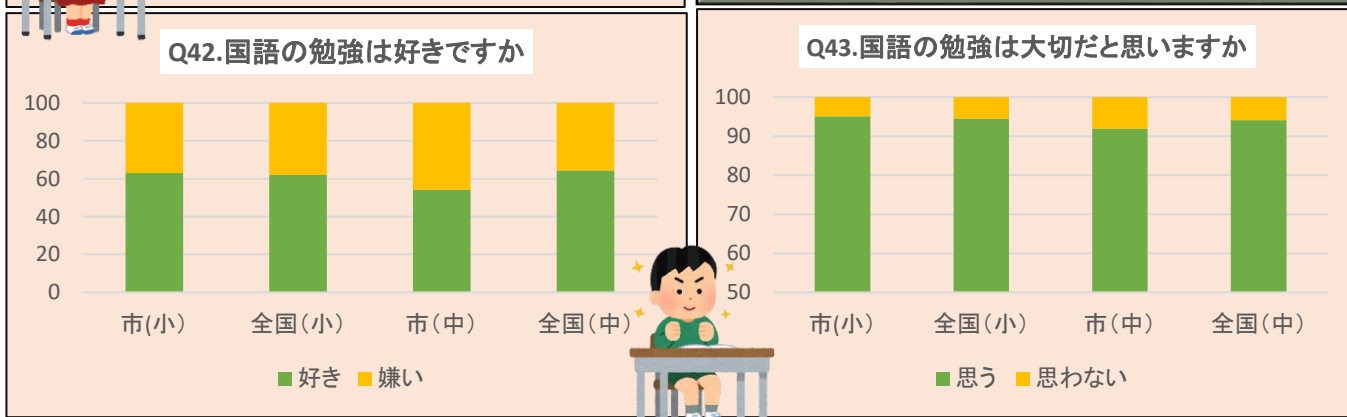
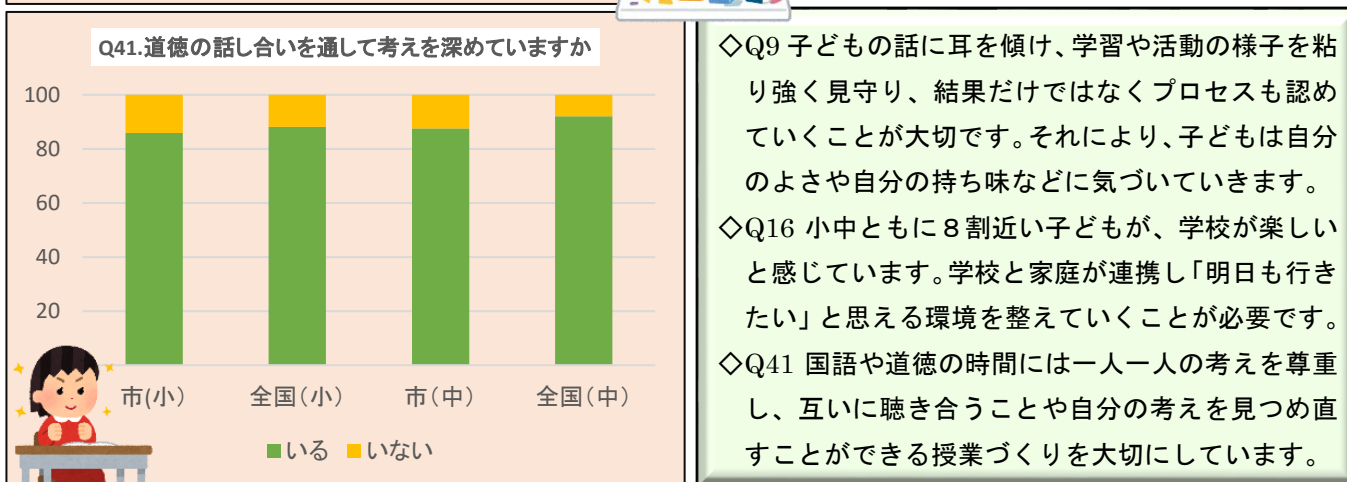
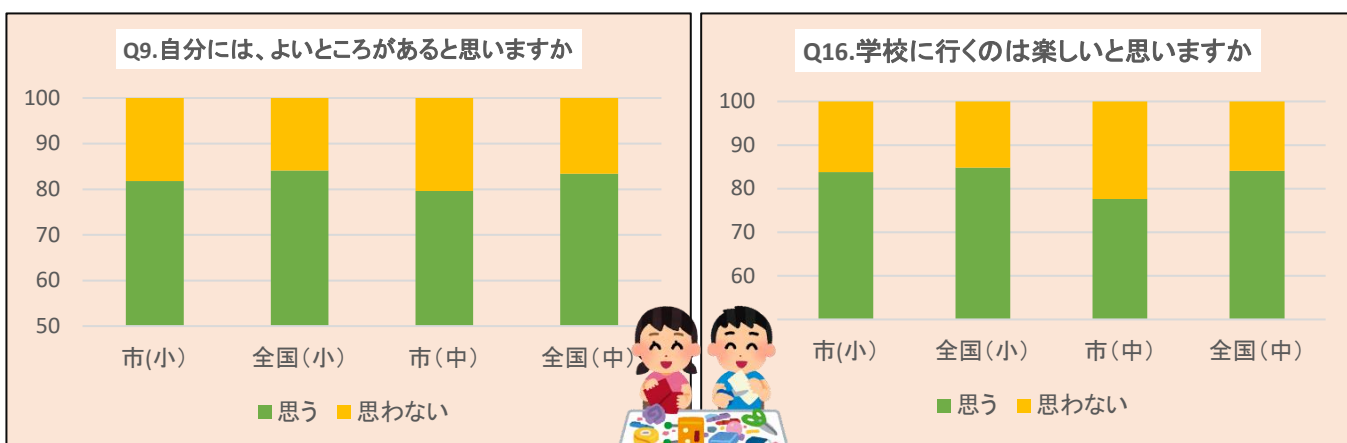


☆Q20 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫することは、自分のペースで得意なことを伸ばしたり苦手なことを克服したりすることにつながり、学習効果が高まります。

☆Q24 全国的にも新聞を読んでいる子どもは、昨年度同様、正答率が高い傾向にあります。実際は「活字離れ」から新聞を読むこと自体が減る傾向にあります。新聞を活用した宿題を出している学級もあります。

☆Q33 ペアや小グループでの話し合いを積極的に取り入れている学校が増えています。子どもたち自身も話し合いのよさを実感していることがわかります。

○学力の向上には、基本的な生活習慣を身につけることに加え、自分に自信を持ったり、学校へ行くことが楽しみだったり、授業の中で「わかった」「できた」と実感したりすることも大切です。60問以上ある質問の中から、抜粋して取り上げた質問に関して、小諸市と全国の子どもの思いを比較してみました。



◇Q42～43 国語に関する質問では、国語の勉強について「大切である」など、前向きな回答をしている子どもが多くみられました。国語教育に力を入れている小諸市では、今後も子どもたちの学ぶ意欲を大切にしながら、「できた」「分かった」を実感できる授業を目指していきます。各学校においては、子ども同士の対話を中心とした授業づくりに努めていきたいと考えております。

※【注】児童生徒の選択肢は「している」「どちらかといえばしている」など、4項目あります。肯定的な回答とそうではない回答の2つの割合(%)に整理し、全国の割合と比較しています。

4 小諸市内の小中学校の今後の取り組みについて

この掲載内容は、小諸市の子どもたちの学力や学習状況の一部であることをふまえつつ、今回の結果や各学校の分析結果を、今後の授業改善や家庭と学校との連携のあり方について考えるきっかけとして活用していきます。「心豊かで、自立(自律)する子どもの育成」を小諸市学校教育目標とし、これからの時代に求められる子どもたちの資質や能力のさらなる育成を図ってまいります。

＜小諸市教育委員会＞